

紫式部公園

紫式部が越前国司に任ぜられた父とともに越前市を訪れたのは長徳2年(996)のこと。都に住む女性が地方で暮らすことなど、ほとんどなかった当時北陸の冬を体験したり、敦賀の松原客館に滞在する宋人を通じて先進的な大陸の文化に直接触れたことは紫式部に大きな影響を与えたと考えられています。そんな紫式部をしのんで、この公園がつけられました。平安時代の貴族の住居(寝殿造)を模した3000坪という広大な敷地に霊峰・日野山をはじめ武生盆地を囲む山々を借景に池や築山を配置しました。全国で唯一の寝殿造庭園で、雅やかな雰囲気漂います。

霊峰・日野山を借景に池や築山を配し、平安時代の庭園を再現した全国で唯一の寝殿造庭園。



紫式部像

金色に輝く紫式部像は、文化勲章受章者の圓鋸勝三氏が制作したもの。聡明で美しかったといわれる紫式部の面影がうかがえます。都の方を向いて立つ式部像の視線の先をたどれば、すっきりとした稜線を描く日野山。ここから見る日野山は特に美しいといわれています。

釣殿

池のほとりに再現された釣殿は総ひのき造り。納涼や月見、雪見の宴が行われた場所です。詩歌を詠んだり雅楽を演奏したり、船遊びのときの乗降場所でもありました。この池は東から西へと渡る月がいつまでも池の水面に映るように東西に長く造られています。平安時代の貴族になったつもりで、釣殿から池に映る木々や月の姿を眺めながら、季節の移り変わりを感じてみませんか。



紫式部歌碑

1 身のうさは 心のうちに したひきて
いま九重に 思ひみだるる



一条天皇の中宮影子的のもとに宮仕えに出たときに詠んだ歌。これまでの境遇と一変した宮中のなか身に置いて思つことの多い心のうちを詠んだものです。
【紫式部詠・内地文字揮毫 昭和61年建立】

2 ここにかく 日野の杉むら 埋む雪
小塩の松に けふやまがへる



初雪が降り目近に見えるようになった日野山の杉むらを埋むほどに雪が降り積もった。京の部の小塩山の松にも今日は雪が散り乱れて降っているのだろうか。
越前市で迎えた初めての冬、降り積もる雪の多さに驚きながら、都への思いを詠んだ歌。都と地方の違いを松と杉、雪の描写で見事に對比させている。
【紫式部詠・谷崎潤一郎揮毫 昭和33年建立】

3 春なれど 白嶺のみゆき いや積もり
解くべきほどのいつとなきかな



春にはなりましたが、こちらの白山の雪はいよいよ降り積もって、おっしゃるよう解けることなんかいつのことかわかりません。(私の心もいつ解けるかわかりません)
当事、若狭に漂着した宋人を越前の松原客館に収容のちに夫となる藤原重幸が「春には宋人を見に越前に行き、あなたに会いたい」とよこした手紙に答えて詠んだ歌といわれています。
【紫式部詠・実践女子大学本むらさき式部集に載る平成2年建立】

紫式部公園マップ



紫式部と国府資料館 紫ゆかりの館

Murasaki Shikibu Museum of Echizen



「紫ゆかりの館」は、源氏物語の作者、紫式部が越前国の国府(越前市に在り)の国司に任命された父とともに、この地で一年余りを過ごしたことを知り理解を深めていただくために、2021年4月にオープンした資料館です。
当館では、紫式部が過ごした時間を体感できる展示と、国府の頃より脈々と生き続けている丹南地域の伝統工芸品の展示、販売をしています。

利用案内

開館時間 9:00~17:00
休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)
年末年始
入館料 無料
越前市東千福町21-12
TEL.0778-43-5013 / FAX.0778-43-5014

紫式部公園の歩き方

東門から公園に入ったら、池の真ん中にある橋を中心に八の字で池の周囲をあるきましょう。公園の東にそびえる日野山、南にある妙法寺山、西方の茶臼山が池に美しく映し出されます。また、金色の紫式部像が池に映える姿が鑑賞できる場所が1カ所だけあるので、ぜひ探してみてください。

ふるさとを偲ぶ散歩道

武生中央公園と紫式部公園を結ぶ約1200mの遊歩道。約160本の松を植え、昔、街中にあった松並木を再現し、舗装には茶色の瓦ブロックを敷き詰めました。越前市の技術である鬼瓦の製作技術を活用し、源氏物語の巻名と源氏香図陶板画や灯籠などを配置。落ち着いた雰囲気漂います。



観光に関する
お問合せ

越前市観光・匠の技案内所
TEL.0778-24-0655

《発行》紫式部と国府資料館 紫ゆかりの館
〒915-0847 福井県越前市東千福町21-12
TEL.0778-43-5013 www.murasakiyukari.com

